

6階病棟紹介

病棟師長 藤田 浩美



6階病棟は、平成21年11月に現在の新病院の移転時に開設された、島根県西部地区唯一の緩和ケア病棟です。緩和ケアとは、がんが進行した段階だけに行なう医療ではなく、がんが診断された早い時期から病気を治す治療と並行して行なわれるものです。緩和ケアが対象とする症状には、痛み、呼吸困難、嘔気・嘔吐、気持ちのつらさなどがあります。主にがんが診断された患者さんが入院の対象で、さまざまな診療科が混在する病棟です。痛みをはじめとした体の苦痛な症状に対する治療や不安など精神的なつらさのケアを行っています。

病棟は、看護師長1名、副看護師長1名、看護師16名、看護補助者1名、看護師長クラーク1名のスタッフで対応しています。

病床数は15床で全室個室になっており、ご家族とゆっくりした時間を過ごすことができます。デイルームには、生花や飾り物があり四季を感じて頂けるように、七夕会、お月見会、クリスマス会、お花見会といった季節の行事を開催しています。

ところで、みなさんは緩和ケア病棟にどのようなイメージをお持ちでしょうか。一部の方から「医師か

ら緩和ケアの話があった時、自分は“もう終わりだ”と思った」「二度と帰れない気がする」といったお話を聞くことがあります。しかし実際には、苦痛な症状がある程度和らいたら、またがんを治す治療を外来通院や他の病棟で継続される方、外出や外泊をして週末をご家族と過ごされる方、退院される方もいらっしゃいます。退院される場合は、退院前に主治医や在宅医、訪問看護と連携して患者さんやご家族が安心して自宅で生活できるよう調整しています。また、入院が必要な時には入院していただけるようになっています。

緩和ケア病棟では、緩和ケアについて多くの方に知って頂くために『緩和ケア病棟見学会』を2回/月(第1・4木曜日)10時から行なっています。見学者は、ご家族や病院のホームページを見て興味をもった大学生などさまざまです。

「緩和ケア病棟が良いイメージに変わった」「実際に病室やお風呂を見学できて良かった。ベッドから花壇が見え、明るい病室だった」という声がありました。緩和ケア病棟に関する相談等ございましたら、見学会をご利用ください。

